

国際規格ISOの動向 ―国際会議に出席して―

ISO/TC156/WG7 (金属及び合金の腐食)ストックホルム会議

須賀 茂雄

ISO/TC156 (金属及び合金の腐食) 国際会議は、5月16日～20日にスウェーデン・ストックホルムにおいて開催された。私はWG7 (腐食促進試験法) 会議に参加した。会議には、スウェーデン・英国・中国・チェコ・フランス・スイス・日本の7ヵ国・16名が参加し、次の項目について審議が行われた。

(1) ISO/CD16701 (温湿度制御下での間歇塩水スプレー) VOLVO社で行われている試験法が改正になり、それに伴うISOの改正である。各国からの投票に大きな問題が無く、主査が編集上のコメントを考慮し文書を修正の上、次のステージ (DIS) に進める事となった。

(2) ISO/DTR16335 (促進試験法を選定するためのガイドライン)

WG7とWG4 (大気腐食試験と大気の腐食分類) の主査で相談の上、遅くとも2011年10月までにCD投票の為の修正した文書を準備する事となった。

(3) ISO/WD16539 (絶対湿度一定下でのサイクル試験: 日本からの新規提案)

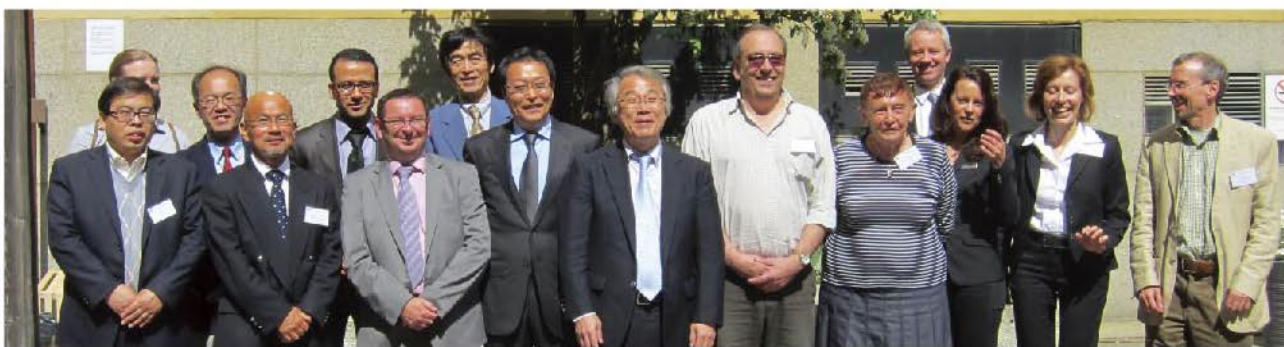
新規提案の投票結果は、賛成国は5ヵ国以上、中国・カナダ・

チェコ・日本・スウェーデンの5ヵ国からのエキスパート登録もあり、承認された。次のステージ (CD投票) に進める事となり、参考文献をWG7の委員に送る事となった。また、関連するパテントがある事を文書に記載し、ISO CSに連絡する事となった。

(4) ISO 9227 (塩水噴霧試験方法) は、小規模の修正を行う事になった。

(5) 腐食試験方法に関連して、ISO/TC107との連絡委員としてスウェーデンの委員と須賀委員が任命された。

(6) 次回の会議は、2012年6月にフランス・パリで開催予定。日本からは、伊藤 叡 国内対策委員長 (新日鉄マテリアルズ (株)) を初め合計12人が参加しており、また日本からの提案物件も多く、この分野での日本の貢献度はかなり高い。ストックホルムは、毎年12月に行われるノーベル賞の授賞式で有名である。ノーベル賞を頂くのは不可能に近いとしても、会議場のSIS (スウェーデン規格協会) の近くにあるガムラ・スタン (旧市街) 内のノーベル博物館で販売しているメダルを模したチョコレートを手に入れるのは容易であった。



ISO/TC42/WG5/TG2,3 (写真/画像の保存性) ロチェスター会議

*坂本 和維

ISO/TC42 (写真/画像の保存性) 国際会議は、6月6日～10日にアメリカ ニューヨーク州 ロチェスターにおいて開催された。日本、米国、英国、スイス、ドイツなど7ヶ国・約30名が参加した。

ロチェスターはKODAKの本社のある町で、今回はRochester Institute of Technology内にある会議室で行われた。

(1) ISO 18930 屋外耐候性

屋外暴露試験と試験機による加速試験のラウンドロビンテストのプロジェクトがある。

2010年11月から屋外暴露試験を日本、アメリカ、スイス、フランスなどの世界各地で実施しており、加速試験は準備段階でその進捗状況の説明があった。屋外暴露試験は2年間 (最大4年)、加速試験は2,000時間 (最大4,000時間) を予定している。

(2) ISO 18937 屋内耐光性

試験湿度と試料面での均一性が話題になった。試験湿度は、実際の試料の表面を通過する空気の規定するという提案がされ測定位置が今後の議論になりそうである。

試料面での均一性は、アメリカから機差によるデータの



ばらつきが前から言われていたが、今回は加速試験装置の試料ホルダの取付場所によってばらつくデータが示された。試験方法、環境などの話題に加え、風による影響の意見があった。均一性を確認するために、各国でラウンドロビンテストを行うことになった。

(3) ISO 18941 耐オゾン性

試験条件を満たす装置の例として弊社の装置概略図が入り、ISOとして発行されることになった。

(4) ISO 18947 耐摩耗・摩擦性

複数の試験方法が記載されており1つに特定すべきという意見が出た。以前にプレゼンされた複数の装置で試験しても結果の優劣は変わらないことが再度説明されたが、合意には至らなかった。

次の会議は、10月にアメリカ・ミネアポリスを予定している。

*営業部海外担当 係長

ISO/TC35/SC9/WG31 (ペイント及びワニス) カンヌ会議

須賀 茂雄

ISO/TC35(ペイント及びワニス)国際会議は、6月6日～10日にフランス・カンヌにおいて開催された。私は主にSC9(塗料一般試験方法)のWG31(硬化後の性能試験)会議に参加した。会議には、アメリカ・スイス・フランス・スウェーデン・ドイツ・オランダ・英国・韓国・日本の9カ国・23名が参加した。審議項目が非常に多く5時までの予定が7時までかかり、時差ボケの頭も重なりとてもキツイ一日であった。特に弊社に関連する部分のみ報告する。塗料の耐候性試験が 1.General guidance, 2.Xenon-arc lamps, 3.Fluorescent UV lamps, 4.Open-flame carbon-arc lamps の4部構成とする事が前回の東京会議にて了承された。Part2及び3は現存の規格をまとめ、Part4は新規提案物件となったが、5カ国の賛成国を得る事が出来た。その後、CD Ballotが行なわれ、今回の会議

で各国の意見を考慮した上で、DIS Ballotに進める事となった。

今回の会議は、フィンランドにて開催予定である。

日本からは、田中丈之委員((株)エー・アンド・ディ)を初め合計7人が参加しており、また日本からの提案物件も多くこの分野での日本の貢献度はかなり高い。

カンヌは5月に開催される映画祭で有名だが、同じ南仏にあるニースと比べるとこじんまりとした町だった。映画祭に招待されることは、今後も起こり得ない事であるので、貴重な訪問であった。夏には、ヨーロッパの多くの人達が太陽を求めて暑くなる南仏を訪れるそうである。一般的には、夏の暑い時期は暑さを避けて避暑地を訪れると思うが、場所が違えば考えも異なるという事か。

